

令和7年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	環境施設課
課等の長	寒河江 清人
環境マネジメントシステム管理推進員	三瓶 善英
対象施設等	北部環境事業所
課職員数	28人(会計年度任用職員等含む)

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A～D)	監査員メモ
(1)課等における環境負荷の認識	照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でのガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。  A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおよそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。	A	現地調査では、2号炉見学エリアのLED照明、人感センサーの導入状況を確認した。あわせて、動力、発電機などの機器の設置状況を確認した。また、業務エリアのLED照明、空調管理について確認し、環境負荷の認識を確認した。ヒアリングでは、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問にも適切に回答があり、すべて認識していた。電気について、照明はLED化で省電力化が進んでいること、使用割合が一番高い動力については操業に必要なモーター等の使用によるものであることなどを確認した。また、リサイクルプラザ屋上には太陽光パネルが設置されていることを確認した。都市ガスについて、焼却燃焼に都市ガスを利用しており、焼却温度を一定に保つための都市ガス利用は欠かせない状況であることを確認した。ガソリンについて、公用車を3台保有しておりそのうち1台はEVであることを確認した。灯油について、事業所内の暖房、温熱水供給補助ボイラーに使用していることを確認した。あわせて、事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況を可能な限り把握し、使用機器などの割合も把握しており、十分な認識があると判断した。
(2)藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。  A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。	A	質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断した。電気使用については、空調の温度設定をこまめに調節、工夫して使用していること、照明についてはLED照明への転換、人感センサーの導入を行っていることを確認した。ガソリン使用については、EV公用車の積極的な利用、用務先への相乗り利用、急発進・急ブレーキを避けるなど運用努力の実践などを行っていることを確認した。また、ガソリン公用車について、更新時期をむかえる際はEVへの更新を検討していることを聞き取った。 このことから、計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅していると判断した。
(3)温室効果ガス排出量の把握と分析	温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。  A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。	A	昨年度の排出量、増減率、理由をすべて把握し、的確に分析できていると判断した。一昨年度と比べて、電気、都市ガス、ガソリン、灯油について排出量の増加がみられた。電気について、北部環境事業所は焼却熱で発電した再生可能エネルギー電力を売電している施設ではあるが、点検等で発電量が少なくなった時などに必要分を買電している。昨年度は電気使用量は減少したが、排出係数の関係で6%の排出量増加となった。都市ガスについて、昨年度は5、6、7月に雨が続き、含水率の高い受入れごみを焼却するために使用量が増えたため58%の排出量増加となった。ガソリンについては、場外作業などによるガソリン公用車の利用が増えたため3%の排出量増加となった。灯油について、焼却炉での温熱水供給補助ボイラーの使用日数が増加したことによって4%の排出増加となった。
(4)温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。  A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。	B	今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」で掲げる2030年度に2013年度比56%の排出削減量を認識して目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため数値を設定して内容も具体的になっていると判断した。主に施設内の排出削減努力を中心として、前年度比で都市ガスが-2%、電気、ガソリン、灯油は-1%の目標を立てている。具体的な削減方法としてヒアリングでは以下の対応策を聞き取った。電気については、日々の業務において昼休みの消灯などを引き続き実践していくとのこと。点検等で発電ができなくなる時期に極力電気を買わないよう1号炉、2号炉間で発電量を調整すること、将来的には、買う電気についてもグリーン電力を導入することで排出量をゼロにすることを検討しているとのこと。都市ガスについては、焼却による排ガスの環境基準をクリアする関係で、含水率の高いごみが搬入されると都市ガスを使用せざるを得ない状況ではあるが、受け入れごみの攪拌、含水率の均一化などの工夫を引き続き実施して対応していくとのこと。ガソリンについては、EV公用車のより積極的な活用を実践していくとのこと。灯油については、ごみ搬入量が減少すると炉からの熱供給が足りずに灯油を使った補助ボイラーを稼働しなければならぬといった関係性にあり、対応が難しいが、ごみ焼却スケジュールの工夫や暖房利用も含めて削減を目指すとのこと。
(5)課内周知	課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。  A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。	A	「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。具体的には、 <b>電気、都市ガスについては毎月使用量を確認して職員間で情報共有を行っているとのこと。さらに、朝礼での報告、月報の回覧時に周知を行っているとのこと。あわせて、委託事業者との間では週1回程度で情報交換報告会を実施して、都市ガスの使用頻度、使用量のチェックや使用量削減に向けた方策について提案、情報共有を行っている</b> とのことをヒアリングで聞き取った。

令和7年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【 実施課等の情報 】

課等の名称	環境施設課
課等の長	寒河江 清人
環境マネジメントシステム管理推進員	二瓶 善英
対象施設等	北部環境事業所
課職員数	28 人(会計年度任用職員等含む)

【 監査項目 】

項目	項目別評価	判定 (◎・○・△・×)		監査員メモ
(4)温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができているか。	電気	△	令和6年度は令和5年度と比べて電気は6%、都市ガスは58%、ガソリンは3%、灯油は4%の排出量増加となった。2013年度比で56%の削減目標から照らして、今後もさらに継続的な削減行動の実践が望まれる。今後さらなる電気の使用削減には、買電分の電気についてはグリーン電力の購入によるゼロ排出を目指すことが望まれる(現在課内で実施検討中とのこと)。都市ガスの使用削減については、焼却時に使用が必要不可欠な状況であるため、受け入れごみの攪拌による性状の均一化などの方策の実施継続とともに、将来的にはカーボンニュートラルガスへの切り替えによりゼロ排出を目指すことが望まれる。ガソリンの使用削減には、例えば、車両更新時においてEVへの転換を検討することが望まれる。灯油の使用については、施設の特徴から、直ちに大幅削減はできないと判断するが、焼却炉からの熱供給による温熱水供給を引き続き計画的に使用することで、灯油補助ボイラーの稼働率を少しでも低下させることが望まれる。あわせて、中長期的には施設改修などの機会に再エネ利用型ボイラー機器へ変更を検討することが望まれる。 <b>以上の施設内での削減行動とは別に、本施設はごみ焼却熱を利用した再生可能エネルギー発電の電力供給者として藤沢市内の公共施設へグリーン電力の供給を行っていることから、温室効果ガス削減に大きく貢献している施設である点で大変評価できることを申し添える。</b>
		都市ガス	△	
		ガソリン	△	
		軽油	-	
		その他(灯油)	△	

- ※判定基準
- ◎…排出量削減の達成できており、使用量も削減できている
  - …排出量削減が達成できている
  - △…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる
  - ×…達成できていない

令和7年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	地域医療推進課
課等の長	車田 晃彦
環境マネジメントシステム管理推進員	鈴木 亨宗
対象施設等	保健医療センター
課職員数	27人(会計年度任用職員等含む)

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A～D)	監査員メモ
(1)課等における環境 負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でのガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおよそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。</p>	A	<p>現地調査では、各階廊下や職員利用エリアの蛍光灯照明の間引きを確認した。そして、熱源機械室に設置している空調機器(冷温水機)、非常用発電機等を確認し、施設全体の環境負荷の認識を確認した。ヒアリングでは、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問にも適切に回答があり、すべて認識していた。</p> <p>電気について、照明についてはLED照明を一部の場所で試験的に導入していることを確認した。動力については主にエレベーター、レントゲン室等での使用であることを確認した。都市ガスについて、空調と給湯にそれぞれ利用していることを確認した。空調については各フロアで各室でガスヒートポンプ式、ガス冷温水機式、電気エアコン式と違う方式が導入されていることを確認した。なお、軽油については非常用発電機で使用する燃油として環境負荷の認識がされているが、稼働や給油実績がないため使用量や温室効果排出はゼロという扱いとして監査することを確認した。あわせて、事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況を可能な限り把握し、使用機器などの割合も把握しており、十分な認識があると判断した。</p>
(2)藤沢市環境保全 職員率先実行計画の 認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断した。電気使用については、空調、照明、OA機器の使用などの職員の日常業務における省エネルギーの推進を実践していることを確認した。照明については、施設全体で照明を間引きし、トイレなどの使用時はこまめな消灯や、使用後のスイッチオフ励行喚起をスイッチ付近掲示していることを確認した。</p> <p>また、日射の入るガラスにはフィルム施行とロールカーテンの設置で、夏季における館内室温上昇を予防していることを確認した。都市ガス使用については、空調の温度管理について気温や湿度に応じてその都度熱源機械室でコントロールを行っていることを確認した。このことから、計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅していると判断した。</p>
(3)温室効果ガス排 出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	A	<p>昨年度の排出量、増減率、理由をすべて把握し、的確に分析できていると判断した。一昨年度と比べて、電気、都市ガスについて排出量の増加がみられた。電気について、昨年度は照明においてはこまめな消灯を心掛けるなどの削減活動を行ってきたが、利用者の熱中症対策で冷房温度を下げる措置をとったため18%の排出量増加となった。都市ガスについても、電気と同様の理由で24%の排出量増加となった。</p> <p>本施設は、フロアによって空調機器の方式が異なり、冷温水方式導入のフロアの場合、一部の部屋の室温を下げようとするとフロア全体を空調で冷やすことになり大量のエネルギーを消費してしまう構造となっている点が増加の原因であることを把握、分析していた。</p>
(4)温室効果ガス排 出量削減のための取 組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	B	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」で掲げる2030年度に2013年度比56%の排出削減量を認識して目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため数値を設定して内容も具体的になっていると判断した。前年度比で都市ガスで50%削減、電気は1%削減の目標を立てている。</p> <p>具体的な削減方法としてヒアリングでは以下の対応策を聞き取った。電気については、引き続き、使用していない部屋の消灯を徹底して不必要な照明を間引くといった努力を行っていくとのこと。都市ガスについては、引き続き、こまめな空調設定を行うことに加えて、今年度より高齢者施設の入浴サービスが事業変更により廃止されたため、大幅な削減が見込めるとのこと。熱中症対策で冷房の温度を下げなければならない部屋については、個別の電気式エアコンの導入を図り、エネルギー効率性を高めることでも削減を見込むとのこと。</p>
(5)課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。具体的には、電気、都市ガスの使用状況については環境部への報告時には共有を行っているとのこと。</p> <p>また、中央監視室の職員との間で熱中症対策でこまめに温度管理を行う相談をしたり、エネルギー使用の削減に向けて提案が上がってきて検討しているとのことをヒアリングで聞き取った。</p>

令和7年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【 実施課等の情報 】

課等の名称	地域医療推進課
課等の長	串田 晃彦
環境マネジメントシステム管理推進員	鈴木 亨宗
対象施設等	保健医療センター
課職員数	27 人(会計年度任用職員等含む)

【 監査項目 】

項目	項目別評価	判定 (◎・○・△・×)		監査員メモ
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができているか。	電気	△	令和6年度は令和5年度と比べて電気は18%、都市ガスは24%の排出量増加となった。2013年度比で56%の削減目標から照らして、今後もさらに継続的な削減行動の実践が望まれる。今後さらなる電気の使用削減については、引き続き、こまめな照明の消灯励行を行いながら、着実に大幅な削減に向けては、早期にLED照明への更新することが最も有効な手段と考える。そして、 <u>将来的にはグリーン電力の購入によるゼロ排出を目指すことが望まれる。</u> 都市ガスの使用削減については、事業メニューの変更により今年度から大幅な削減が見込まれているが、エネルギー効率性の観点から、空調機器での使用と排出をいかに削減していくかを早急に検討改善する必要がある(熱中症対策の必要な部屋については電気式個別エアコンの導入を検討中とのこと)と考える。また、 <u>将来的にはカーボンニュートラルガスへの切り替えによりゼロ排出を目指すことが望まれる。</u> <u>日頃の空調利用に関わる電気、都市ガスの削減行動として、施設の構造上(窓が大きく日射による室温上昇が大きい)の観点から、これまで、大窓ガラスにロールカーテンを設置するなどの細やかな対処について大変評価できる。</u> 今後もさらに、藤沢市内の他施設での対応状況(グリーンカーテンの設置)を収集したり、施設内での再エネ導入の可能性について検討を重ねてほしい。
		都市ガス	△	
		ガソリン	-	
		軽油	-	
		その他(灯油)	-	

※判定基準  
◎…排出量削減の達成できており、使用量も削減できている  
○…排出量削減が達成できている  
△…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる  
×…達成できていない

令和7年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表

【実施課等の情報】

課等の名称	学校施設課 学校給食課
課等の長	藤津 浩士 芳賀 敬
環境マネジメントシステム管理推進員	秋元 進吾 田中 弘光
対象施設等	白浜養護学校
生徒数	170 人

【監査項目】

項目	項目別評価	判定(A～D)	監査員メモ
(1) 課等における環境負荷の認識	<p>照明・空調等の電気の使用やガスの使用、公用車でのガソリンの使用等、自課の環境負荷のあるものを認識しているか。</p> <p>A…すべて認識し、使用機器などの割合も把握している。 B…おおそ認識し、使用機器なども把握している。 C…把握しきれていない。 D…把握していない。</p>	A	<p>現地調査では、各階廊下の照明機器の設置状況、調理室の調理機器や空調機器を確認した。そして、機械室に設置している空調機器(冷温熱発生機)、非常用発電機等を確認し、施設全体の環境負荷の認識を確認した。ヒアリングでは、「どのような場合に設備への負荷がかかるのか」といった質問にも適切に回答があり、すべて認識していた。電気について、現在グリーン電力契約を行っていること、空調は主に職員エリアのエアコン、動力は主にポンプの利用であることを確認した。都市ガスについて、空調は冷温熱発生機での利用、調理室では調理機器の熱源として利用していることを確認した。軽油については非常用発電機で使用する燃油として環境負荷の認識がされているが、稼働や給油実績がないため使用量や温室効果排出はゼロという扱いとして監査することを確認した。あわせて、事前提出のヒアリングシート監査項目(1)を見ても、環境負荷機器類等の使用状況を可能な限り把握し、使用機器などの割合も把握しており、十分な認識があると判断した。</p>
(2) 藤沢市環境保全職員率先実行計画の認識	<p>計画期間や削減目標を認識し、実践しているか。</p> <p>A…計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅している。 B…計画期間や目標を認識し、各取組項目を実践している。 C…率先実行計画の存在は認識している。 D…率先実行計画を知らない。</p>	A	<p>質問応答から、「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の認識について十分であると判断した。電気使用について、グリーン電力を利用している状況下でも、使用していない部屋の照明、空調、OA機器の電源をこまめに切る行動を確認した。ヒアリング時にも下校が終わると教室や廊下などの照明を消灯していく状況を確認できた。都市ガスについて、空調利用における生徒の体調等に応じた適切な温度設定や定期的なフィルター清掃の実施を確認した。また、職員には職員エリアでの授業準備を促し、空調稼働の抑制をはかっていることを確認した。そして、調理室では食器洗浄機で1回の洗浄につき可能な限り、決められた満量の食器を入れて洗うことで効率化を心掛けていることを確認した。</p> <p>このことから、計画期間や目標を認識し、実践では各取組項目を網羅していると判断した。</p>
(3) 温室効果ガス排出量の把握と分析	<p>温室効果ガス排出量の増減を把握し、増減理由(原因)を的確に分析しているか。</p> <p>A…排出量、増減率、理由すべて把握し、分析までできている。 B…排出量、増減率、理由は把握しているが、分析があいまい。 C…排出量、増減率は把握しているが、理由が不明。 D…把握できていない。</p>	B	<p>昨年度の排出量、増減率、理由をすべて把握し、一部を除き、的確に分析できていると判断した。電気についてはグリーン電力を購入しているため、温室効果ガスの排出量はゼロである。一昨年度と比べて、都市ガスについて11%の排出量の増加がみられた。学校施設課での増加については、受け入れ児童生徒数の増加により実習授業等の回数が増えており、そのために教室の使用時間が延長した結果、空調の都市ガス利用が増えている点が原因であると把握、分析していた。一方で、学校給食課での減少は受水槽の故障により他校で食器洗浄を代替したり休校したりしたため都市ガス利用が減少したと要因付けするも、はっきりとした理由は不明とされた。今後は毎年度の増減率に関して詳細な要因分析が望まれる。</p>
(4) 温室効果ガス排出量削減のための取組	<p>率先実行計画に準じて目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため具体的な数値を設定して取り組んでいるか。</p> <p>A…数値を設定し、内容も具体的ですべて取り組まれている。 B…数値を設定し、内容も具体的になっている。 C…目標はあるが、数値まではたてられていない。 D…目標がたてられていない。</p>	A	<p>今年度は「藤沢市環境保全職員率先実行計画」で掲げる2030年度に2013年度比56%の排出削減量を認識して目標が立てられ、温室効果ガス排出量を削減するため数値を設定して内容も具体的ですべて取り組んでいると判断した。電気についてはグリーン電力を購入しているため、2013年度比で100%の温室効果ガスの排出削減が達成されている。また、前年度比で都市ガスは1%削減の目標を立てている。具体的に、これ以上増加させない方法としてヒアリングでは以下の対応策を聞き取った。電気については、グリーン電力であるため排出量がゼロであっても、こまめな照明や空調の調整や電源オフなどを積極的に実践していくとのこと。都市ガスについては、空調の適切な温度設定や使用頻度の管理、児童生徒の下校時には空調を一度停止して、職員エリア(主に電気式空調制御)での業務を促しているとのこと。調理室では調理機器の加熱以外のところで、空調の適切な管理など節約に努めているとのこと。</p>
(5) 課内周知	<p>課内会議や回覧等で、率先実行計画の周知やエネルギー使用状況、温室効果ガス排出量削減の目標値の共有が図られているか。</p> <p>A…課内周知が図られており、全員が把握している。 B…課員複数名が把握している。 C…担当職員のみ把握している。 D…把握していない。</p>	A	<p>「藤沢市環境保全職員率先実行計画」の周知やエネルギー使用状況、排出量削減の目標値の共有が図られていると判断。具体的には、電気については電力使用量について課内周知が図られ、疑義がある場合は学校の管理担当に報告をしているとのこと。都市ガスの使用状況について、調理室では職員間で日頃よりエネルギー消費の節約行動を共有し、業務終了時は空調を消して職員エリア(控室)で業務を行うなどが実践されていることをヒアリングで聞き取った。</p>

令和7年度 藤沢市環境マネジメントシステム監査 採点表(環境パフォーマンス)

【実施課等の情報】

課等の名称	学校施設課 学校給食課
課等の長	藤津 浩士 芳賀 敬
環境マネジメントシステム管理推進員	秋元 進吾 田中 弘光
対象施設等	白浜養護学校
生徒数	170 人(会計年度任用職員等含む)

【監査項目】

項目	項目別評価	判定 (◎・○・△・×)		監査員メモ
(4)温室効果ガス排出量削減のための取組	率先実行計画において設定する「2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で56%削減」という目標に適した削減目標の設定、取組内容の実行ができているか。	電気	◎	<b>電気に関してはグリーン電力の購入によるゼロ排出を達成している点を大変評価する。</b> また、ゼロ排出であっても電気の使用を抑える節約行動を不断に実践している点も評価できる。令和6年度は令和5年度と比べて、都市ガスは11%の排出量増加となった。2013年度比で56%の削減目標から照らして、今後さらに継続的な削減行動の実践が望まれる。都市ガスの使用削減については、調理業務は一定の加熱のために都市ガスの使用が避けられない状況となっている。また、 <u>空調機器での都市ガス使用にについても児童生徒の受け入れ増加や体調管理面から、空調使用は避けられないこともあり、根本的な解決策としては、早期にカーボンニュートラルガスへの切り替えによりゼロ排出を目指すことが望まれる。</u> 本施設は、藤沢市の公共施設としてグリーン電力を導入による温室効果ガスの排出をゼロとした先例のひとつと言える。そのため今後、温室効果ガス削減対策の参考事例として、市内各施設へ積極的なグリーン電力導入に関する知見の提供を願う。
		都市ガス	△	
		ガソリン	-	
		軽油	-	
		その他(灯油)	-	

※判定基準  
◎…排出量削減の達成できており、使用量も削減できている  
○…排出量削減が達成できている  
△…達成できていないが、取組を実施し努力が認められる  
×…達成できていない